

～夢と希望をもち 未来にはばたく つばさっ子の育成～



つばさ

さいたま市立つばさ小学校

7月号 No. 4

令和8年6月30日

「好きこそものの上手なれ」

校長 千 明 勉

去る4月26日、本校の吹奏楽部は、所沢市民文化センターにおいて、県のトップバンドが集まる「ジョイフルフェスティバル2026」で演奏しました。私も本校の吹奏楽部が毎年のように活躍していることは承知しておりましたので、演奏を楽しみにしておりました。当日は本校卒業生を含めた昨年度のメンバーで舞台に立ち、素晴らしい演奏を披露し、多くの拍手をいただきました。本校の吹奏楽部は、地域のイベント等でも演奏する機会をいただいていると伺っておりますので、今後も温かいご支援を賜りたく存じます。

ご承知のとおり、吹奏楽部は課外活動の一環として、人間性豊かな児童の育成、音楽を愛好する心情の醸成などをねらいとし、音楽を通して自らの個性の伸長を希望する4年生以上の児童で活動しております。もちろん吹奏楽部以外でも、ピアノ、習字、スポーツなど放課後の時間に様々な習い事等に取り組んでいる児童も多いことでしょう。吹奏楽部の活動は平日が週4回、時には土曜日も活動するので、きっと友達と遊ぶ時間等は制限されてしまっているかもしれません。そのような中でも、部員一人ひとりが熱心に活動に取り組んでいるので、今年度部長を務める児童に話を聞いてみることにしました。

校長：どうして入部したのか？

部長：家族の影響を受けて、音楽に関心をもっていただけから。

校長：今、楽しいか？

部長：コンクール前はつらいこともあるけど、みんなでいい音楽をつくろうと努力し、音がひとつに合わさった時がとても楽しいと感じる。

校長：応援しているので、今後がんばってほしい

部長の話聞いて、自分自身で好きなこと、楽しいこと、夢中になれることをしっかりと自覚している人は生き生きと自分の言葉で語れて素晴らしいなと感銘を受けました。

皆さんはテレビでおなじみの、「さかなクン」を知っていますか。「さかなクン」こと、宮沢正之さんは小学校の頃から魚の絵を描いたり、水族館や隣町の魚屋さんに出掛けたりするほど魚が大好きでした。宮沢さんは自身の著書の中で、「夢中になれるものがあると、それは心の支えになります。落ちこんだときにとっても大きな力をくれます」「夢中になってひとつのことに打ちこんだという経験は、けっしてムダになりません。人生のどこかできっと役に立ちます」（さかなクン「さかなクンの一魚一会まいにち夢中の人生」講談社青い鳥文庫、2021年）と語っています。宮沢さんは「好きこそものの上手なれ」を具現化し、今を生き生きと生きるモデルの一人であると受け止めています。つばさっ子にも、「好き」「楽しい」「夢中」を見付け、未来にはばたいてほしいと願っています。

暑さが増してまいりましたので、健康に十分ご留意ください。来月も本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。なお、学校だより8・9月号は7月17日の終業式に発行することといたしますのでご承知おきください。